平成26年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

高須小学校の取組

尾道市立高須小学校

<学校概要>

平成27年1月21日現在

◆在籍児童数774名

・通常の学級23学級

・特別支援学級2学級

（知的障害特別支援学級1学級）

（自閉症・情緒障害特別支援学級1学級）

・通級指導教室2教室（LD・ADHD）

◆学校が支援を要すると判断した

通常の学級の児童数101名

（個別の指導計画は内48名作成済）

<校内体制>

平成27年1月21日現在

◆特別支援教育コーディネーター1名指名

◆月1回，校内委員会実施

→全校で共有すべき点は学年部で伝え

個への対応について意識統一する

◆個別の指導計画作成

→毎学期見直し，個の支援に生かす

◆校内全体研修実施（H26，8月）

→広島県立尾道特別支援学校より講師を招き，支援の必要な児童への関わり方を学ぶ

---

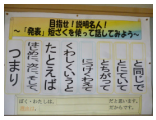
1 学校全体の取組

①生徒指導について

◆学習規律・生活規律を全校で統一

②掲示物の工夫

◆発表の仕方・そうじ道具や給食のかたづけ方などの掲示（視覚的支援）



---

2 授業実践報告（概要）

【授業概要】

◆体育科　第6学年

「マット運動」

◆後転系の技を繰り返したり組み合わせたりできる。

【学級全体の状況】

◆開脚後転・開脚前転についてはおおむね満足できる児童は7割にとどまっている。技のポイントを明確にする必要がある。

【個の状況】

◆児童A・・・話をすることが苦手。説明を理解しにくい。

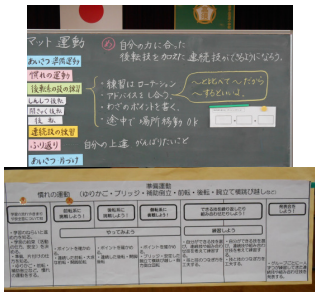
◆児童B・・・協力して進める活動が苦手。指示の聞きもらしが多い。

---

2 授業実践報告

（学級全体への支援）

①時間スケジュールの提示



学習の見通しがもてないと不安になる児童がいることから，単元の学習内容と本時の学習内容を掲示し，学習をパターン化しておく。

2 授業実践報告
（学級全体への支援）

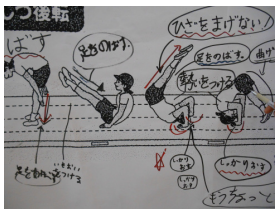
②導入の工夫

毎時間，授業の初めにゆりかご・前転・後転・ブリッジなど，技に関連した慣れの運動を取り入れ，腕支持や回転の感覚など技の習得に必要な基礎的な技能を育てていく。

2 授業実践報告
（学級全体への支援）

③視覚化1

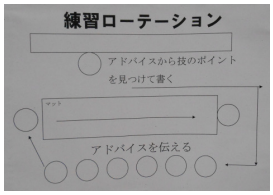
技のポイントを確認させるために，正しくできている児童の技やイラストと比べさせる。動きを言語化させる。



2 授業実践報告
（学級全体への支援）

④視覚化2

順番を守って練習したり，技の出来栄えやアドバイスを伝えたりできるよう練習ローテーションを見える化し，学習の流れを作る。



2 授業実践報告
（学級全体への支援）

⑤話型を示す

（　　）と比べたら
（　　）だったから，
（　　）するといいよ。

とアドバイスの型を示す。

※出来栄えだけでなく，具体的なアドバイスができている児童を褒める。

2 授業実践報告
（個への支援）

⑥個に応じた場の設定

運動を苦手とする児童や，苦手意識を払拭できない児童のために個に応じた練習の場を設定していく。

※後転・開脚後転ができにくい児童のため，踏切板をマットの下に入れている。

3 成果と課題

【成果】○「見える化」は，技の上達に有効

・学習の流れ，技のポイント，練習ローテーション，話し方などを言葉や図にして，「見える化」することは，子供たちにわかりやすい支援につながるとともに，技の上達に有効であった。

【課題】▲個への支援の工夫が必要

・技の上達のための個への支援として情報機器を活用することで，自分の技の状態を，すぐに確認し，修正できるようにする。